

広 徳

校 訓

『 誠 実 』 『 勤 勉 』 『 創 造 』

学校だより 特別号

平成28年 12月21日 (水)

校長 田中秀昌

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

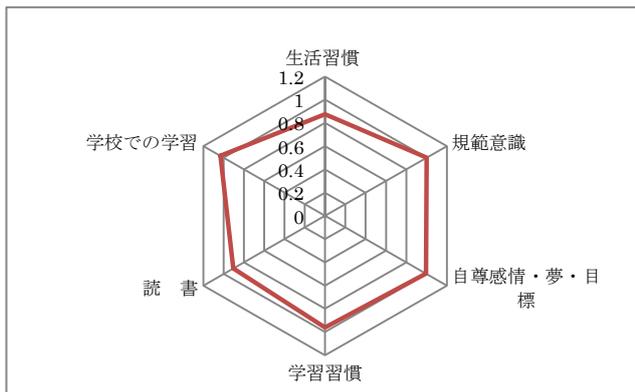
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部分を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	文章を読むことに慣れ、基本的な定着を図る必要がある。まずは、日々の漢字の練習、読書、辞書をひく等の基本的な学習を繰り返す必要がある。	下回っている
国語B	文章の読み方、書き方を中心とした活用する力に課題がある。長文に慣れ、どこが聞かれていることか、必要なことは、何かを判断する力が必要である。	下回っている
数学A	計算力については、取組の成果が少しずつでているようである。他の領域についても定着を図る必要がある。	下回っている
数学B	問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題がある。資料の中で、問題を解決するために必要なことを判断する力が必要である。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・校則を守ると答えた生徒は、全国より10%多く、将来の夢や目標を持つ、人の役に立つ人間になりたいと思う生徒は全国よりやや多い。
・テレビゲーム、スマートフォン等に接触している生徒は全国比で10%以上多く、家庭学習の時間は全国よりかなり少ない。
・読書が好きな生徒は全国平均より低く、あまり読書をしていない生徒の割合は、全国比10%程度多い。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図るために授業改善に取り組み、「読む」「書く」活動をとおして、思考力や判断力・表現力等を育成する。各教科にとどまらず、道徳や特別活動の時間にも「読む」「書く」活動を積極的に位置づけるとともに、自己の意見等を発表したり説明したりする活動を仕組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

調査結果では、就寝時間が不規則だったり、朝食を食べていない生徒の割合が全国より高い。家庭学習や読書の習慣を定着させるため、家庭と連携を取りながら、宿題のスタンダード化や朝読書に取り組み、また、学校図書館の活用を推進することで、家庭学習や読書の習慣を定着させ、学力の向上を図る。